

進捗状況の概要 ※得られたアウトカムを含む構想の実現の観点から記載すること【1ページ】

東北大学グローバルイニシアティブ構想の目的

東北大学を中核とする「知の国際共同体」を形成し世界に大きく貢献するとともに、グローバル時代を牽引する卓越した教育研究を行う大学へと飛躍する「世界から尊敬される三十傑大学」を目指す。

進捗状況の概要

1. 「国際共同大学院プログラム」群の創設と先端的教育研究クラスターの構築

- 令和元年度までにスピントロニクス分野、データ科学分野、日本学分野をはじめとする9つのプログラムにおいて教育が実施されており、20の海外有力大学とJointly Supervised Degree(JSD)/Double Degree(DD)に関する覚書を締結し、海外有力大学との強い連携のもとに共同教育を実施している。**当初計画の7プログラムを更に上回る9プログラム設置を事業開始後4.5年で達成した。**
- 奨学金や海外渡航費を独自財源（令和元年度約2.9億円）により支援し、プログラムの在籍者数は令和元年度197人に増加し、すでに21名の修了生を輩出している。
- 本事業を端緒とする研究の強み・将来性の分析を発展させ、「国際共同大学院を併設した9領域の国際研究クラスター」を構築した。**本事業で構想した研究力強化と国際共同大学院プログラムを通じた教育改革との相乗効果を伴う「知の国際共同体」を形成する「先進的な教育研究クラスター」が当初の計画を超えて組織化された。**

2. グローバルリーダー育成の教育基盤整備

- 国際学位コース等の充実による外国人留学生数の大幅な増加（2,048→（R5年度目標3,500人を上回る）3,548人）、教員の国際化による英語授業科目の大幅な増加（586→（R5年度目標910科目を上回る）1,065科目）などにより、**学生の多様性の向上、キャンパスの国際化が一層進展した。**
- 東北大学グローバルリーダー育成プログラム（TGL）の認知度は上がり、学部学生の約3割（3,304人）が本プログラムに参画している。TGLの全学的推進に伴い、海外留学や国際体験の機運が高まり、協定派遣学生数（269→（R1年度目標720人を上回る）750人）、「国際共修」型の授業科目数（11→70クラス）も大幅に増加した。入学予定の高校生を対象とした「入学前海外研修（平成25年度から6回派遣し、146人参加）」、スーパーグローバルハイスクール採択校との共同イベントなど、高等学校とも連携し、本学を志す生徒に対する早期のグローバルマインド醸成も図っている。さらに、国内最大級の国際混住型学生寄宿舎や東北大学生の国際交流団体の拡大により、授業だけではなく日常生活を通じた留学生と国内学生の共修環境の構築が可能となった。こうした取組を推進したことにより、**オープンでボーダレスな国際共修キャンパスの深化**がなされた。

3. 国際化環境整備とガバナンス体制

- 第一回（平成28年度）の国際アドバイザーレポートからの評価を受け、平成30年7月に総長直下の組織として国際戦略室を設置した。第二回（令和元年度）においては、UCL学長を議長とする国内外の有識者等から**国際戦略の方向性やこれまでの取組について高い評価**を得た。
- 海外拠点を活用した海外現地入試、留学説明会、共同ワークショップ、定期的な情報発信といった取組が、本学を志す留学生の増加や新たな同窓会設立・同窓生増加をもたらし、本学の**国際プレゼンスの向上や戦略的な広報展開**と海外同窓会組織化にも大きく資することとなった。
- 海外有力大学との戦略的国際共同研究ファンドやワシントン大学とのアカデミックオープンスペースでの活動などに基づく**戦略的国際パートナーシップを構築**し、総長のトップダウンにより本学の資源を効果的に措置して全学的な交流を進める枠組みを構築した。
- 本事業で構想された取組は、「指定国立大学法人構想」や「東北大学ビジョン2030」の教育・研究・国際化・大学経営改革の各主要施策としても設定されている。**本事業の戦略的推進による大学改革および国際化の内在化**が着実に進んでおり、事業終了後も継続して取り組むことができる体制となっている。

2020年THE世界大学ランキング日本版での総合ランキング1位や世界50位以内に入る研究領域の拡大などの研究力の向上により、本学の**国内外での評価が高まり、大学ブランド力が向上**している。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

1. 「国際共同大学院プログラム」群の創設と先端的教育研究クラスターの構築

- 国際共同大学院では、スピントロニクス分野でのマインツ大学を皮切りに、ハイデルベルク大学、アーヘン工科大学、ウプサラ大学、ケースウェスタンリザーブ大学など 20の海外有力大学と Jointly Supervised Degree (JSD)/Double Degree (DD)に関する覚書を迅速に締結し、強い連携のもとに質の高い共同教育が盛んに実施されている。
- 平成 27 年度に国際共同大学院の設置を契機として、「学位プログラム推進機構」を設置し、研究科横断型の学問領域の壁、国境の壁、産業界などのセクターの壁を超える先進的な大学院教育プログラムを戦略的に全学展開している。機構では、9つの国際共同大学院を含む 15 プログラム（博士課程学生数：約 350 人）を有し、新規プログラムの認定のほか、外部委員や海外教員を含む複数名の審査員による Qualifying Examination (QE) 及びプログラム学位審査を行い質の保証を担保している。

2. グローバルリーダー育成の教育基盤整備

- 外国語で学位が取得可能な国際学位コースが大幅に増加した。学士コースでは、令和元年度の志願者は平成 25 年度と比較して3倍以上となり、卒業生の多くが本学や海外のトップレベル大学院に進学している。大学院コースは、国際研究クラスター9領域を含む訴求力のあるものとなっている。その他、国内最大規模の海外協定校ネットワークを活用した交換留学プログラムの実施、国際混住型学生寄宿舎での国際共修環境の構築などの結果、通年での留学生数は、平成 25 年度の 2,048 人から令和元年度は 3,548 人となり、令和 5 年度の目標である 3,500 人を上回る大幅な増加となった。
- TGL プログラムの全学的推進に伴い、海外留学や国際体験の機運が高まり協定派遣学生数、単位取得を伴う海外派遣学生数ともに事業開始後大幅に増加している。また、外国人留学生の増加とともに国内学生と留学生がともに参加する「国際共修」型の授業科目を多く提供できる環境も整備され、順調に科目数を増やしている。国際共修ゼミのクラス数は、平成 25 年度の 11 クラスから令和元年度は 70 クラスと 6 倍以上に増加し国内最大規模を誇っており、国際共修キャンパスの深化に大きく貢献している。
- TGL プログラムでの成功実績を受けて、本学では「東北大学ビジョン 2030」において、学生が未来社会に向けて備えるべき現代的リベラルアーツとしての実践的な教育プログラムの実施を謳い、令和元年度に「挑創カレッジ」を創設し、グローバルリーダー教育としての TGL プログラムに加えて AI・数理・データリテラシー教育、アントレプレナーシップ教育を開始した。TGL プログラムでの成功実績をモデルケースとして、他のプログラム創設への横展開に繋がった。

3. ニューノーマル時代に向けた国際展開

- 令和 2 年 4 月には、新型コロナウイルス感染症の拡大により生活が困窮している学生や、遠隔授業を受ける体制が整っていない学生に対する緊急学生支援パッケージ（総額 4 億円）を迅速に開始し、留学生 384 人を含む 3,582 人の経済支援を行うとともに、学生参加型ピアサポーター制度（留学生 121 人を含む 2,289 人のサポーター）を構築し、新入生を含む多様な学生の学生生活を支援した。
- 国際教育については、令和 2 年 4 月に、今後 2 年間をオンラインによる国際教育の拡張を立案・実施する集中期間と位置づけ、種々の国際教育支援施策を東北大学 Be Global プロジェクトと銘打ち推進することで、ニューノーマル時代の国際教育を先導することを目指すこととした。すでに、オンラインによる正課授業「国際共修授業」 2 科目を 1 学期開始にあわせて海外の大学と協力して行った。本学は国際共修授業を国内最大規模で推進しており、オンラインでの国際共修授業の展開（2 学期は 20 科目提供予定）により、オンライン国際体験プログラムと併せて、さらに魅力ある国際教育環境となっている。
- 令和 2 年 4 月には、ウェブによる世界主要放射光施設サミットを開催したことを始めとして、オンラインを活用した国際共同研究コミュニティの形成を図った。
- こうした経験なども踏まえて、距離・時間・国・文化・価値観などの壁を越え、本学が社会・世界とダイナミックに繋がり、ニューノーマル時代を見据えた社会の変革を先導すべく、「東北大学ビジョン 2030」の更新を行い、大学の変革を加速する「コネクテッドユニバーシティ戦略」を令和 2 年 7 月に策定した。